

講義名	対)心理学演習（援助に活かす発達検査）			
担当教員	銅直 優子			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限	授業形態	演習	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考

主題と概要

相談援助にかかわる者にとって、対象者が今より少しでも社会生活に適應するためにはどのように援助計画（ケアプラン）を作成するかは必須事項の一つである。援助計画の策定のためには、対象者を取り巻く様々な状況についてのアセスメントが必要であるが、特に、対象者が児童、知的障害あるいは発達障害児・者の場合には、発達や知能の心理アセスメントが不可欠であり、発達検査等の应用能力が求められる。本講義では、相談援助場面で上記のような要請に応えられるために、相談援助者に必要な代表的な発達検査の実施技能と解釈能力、ならびに検査結果の活用能力の習得を目指す。

到達目標

【対面授業】この科目は、「対面型」で実施します。到達目標の達成のためには、授業形態や扱う教材等の関係上、対面型での授業が望ましいためです。「オンデマンド型」ではありませんので、時間制約の範囲等に指定された教室で授業に参加してください。
なお、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には、受講方法について、個別にメール連絡しますので、メールの確認を忘れないようにしてください。

発達と発達障害についての知識が習得できる。
代表的な発達検査の実施技能と解釈能力が習得できる。
相談援助現場において発達検査の結果を活用する基礎能力が習得できる。

提出課題

・演習のくぎり毎にレポート課題あるいは確認テストを課すので、指定された期日までに提出すること（授業時間内での提出の場合もある）。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

・レポート課題あるいは確認テストの解説は提出後に授業内で行う。

評価の基準

・授業中の施行法演習ならびに分析演習で習得度をチェックする。
・授業終了時に理解度を確認する小テストを行った場合はその結果も評価に反映される。
・受講態度と習得度およびレポートの内容で総合的に評価する。

履修にあたっての注意・助言他

・本演習では、発達検査を実際に行ってもらうため、欠席が目立つ場合は単位取得ができない場合がある。
・提出課題が一つでも欠けると、単位取得ができない場合がある。

全学的に対面授業が行えなくなった場合には、講義連絡を通じ連絡を行う。
新型コロナウイルス感染症や濃厚接触者などの理由で対面が一時的に困難になった場合は、対応については個別に連絡を行う。

教科書	.使用しない.				

プリント資料及び参考文献

【プリント資料】
・必要に応じて授業中に資料を配布する。

【参考文献】
・参考文献は、講義内で適宜紹介する。

授業計画

発達障害児・者の相談援助における発達検査の応用の意義
発達と発達障害の理解
発達検査の基礎知識
Wisc- 知能検査：施行法演習
Wisc- 知能検査：施行法演習
Wisc- 知能検査：施行法演習
Wisc- 知能検査：施行法演習
Wisc- 知能検査：施行法演習
Wisc- 知能検査：分析演習
Wisc- 知能検査：分析演習
Wisc- 知能検査：分析演習
Wisc- 知能検査：分析演習
その他の心理検査との併用
定型発達の理解
援助のための情報収集法
援助計画策定のポイント（どのように検査結果を支援に活かすか）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：児童、知的障害者、発達障害者等、援助対象者の心理・行動特性について予習しておくこと（2時間程度/週）。
復習：授業中に配布する資料を基に、検査の施行手順、教示、判定基準について復習すること。また、結果の整理については、授業中に学んだことを反復し、手順や計算方法をマスターすること（2時間程度/週）。不明な点や疑問点がある場合は次回の講義時に質問して解決すること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標の 、 、 を達成することで、ディプロマポリシーの「援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場と援助現場で心理学を応用すること」に貢献することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業回によってはレスポンスを使用する場合がある。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。病院施設において心理検査の実務経験がある。Wisc- を施行し、所見を作成することで、受験者にフィードバックを行っている。そのことにより、受験者の社会適応をよりよくするために貢献する実務経験がある。

備考